

熊谷地方気象台

石川観測予報管理官に

インタビューしました



インタビューに答える石川管理官

「大雨特別警報」というのは、どのような警報ですか

石川さん (以下敬称略) 「大雨特別警報」は、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表し、対象地域の住民の方々に対して最大級の警戒を呼びかけるものです。「大雨特別警報」が発表された場合は、これまで経験したことのないような非常に危険な状況にあります。既に災害が発生している避難が困難となっていることも想定されます。

「大変な状況といっていますね石川」そうです。「大雨特別警報」の発表を待つことなく、市町村の避難に関する情報や気象

庁の防災気象情報、河川の水位などの情報を利用して、早めの避難を心がけてください。

「近年の気象状況は昔と比べてどのように変化していますか」石川 世界の年平均気温は、長期的には100年あたり約0.73℃の割合で上昇しており、特に1990年代半ば以降、高温となる年が多くなっています。

日本の年平均気温は、長期的には100年あたり約1.19℃の割合で上昇しており、特に1990年代以降、高温となる年が頻出しています。

また、アメダスデータから見た非常に激しい雨の年間発生回数は増加しており、最近10年間の平均年間発生回数は約238回で、統計期間の最初の10年間の平均年間発生回数と比べて約1.4倍に増加しています。

「近年の気象庁の取り組みを教えてください」石川 近年、集中豪雨や台風による被害が相次いで発生しており、また、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化していま

す。これらを踏まえ、気象庁では防災・減災のため防災気象情報の改善に向けた2つの基本的な方向性を示しました。

一つ目は、「社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなることも発生のおそれを積極的に伝えていく」二つ目は「危険度やその切迫度を認識しやすくするよう、分かりやすく情報を提供していく」です。

「具体的な取り組みは何ですか」石川 それら基本的な方向性から、警報等の色分けした時系列化や、危険度分布、いわゆるメッシュ情報を昨年7月から提供開始しています。

「記録的な大雨が見込まれるというのは、どのようにして事前にわかるのですか」石川 普段の予報作業も同様ですが、スーパーコンピュータによって計算された数値予報資料を基本として数日先まで天気シナリオを組み立てます。週

間予報では1週間先までとなり、梅雨前線が同じような位置に停滞し、活動も活発であると予想されたことから、異例ではありましたが危機感をお伝えするために、かなり早い報道発表となりました。

「気象衛星ひまわり8号とスーパーコンピュータにより日本の予報技術は世界トップクラスです。」

「よく「何年に一度の大雨」といいますがどうですか」石川 「50年に一度の大雨」とは平成3年以後のデータを用いて、50年に一度程度の頻度で発生すると推定される降水量と土壌雨量指数の値を5㎝格子で計算した値です。この格子が府県程度に広がり、更に大雨が続くと予想された場合に「大雨特別警報」を発表します。

「一般の方でも分かりやすく見るとはできますか」石川 気象庁ホームページでは浸水害、土砂災害、洪水害の危険度分布やメッシュ情報を公開しています。この情報で格子が濃い紫色となった場合は「極めて危険な状況」となっており、災害が発生しているもおかしくない状況と理解していただきたいと思います。



熊谷地方気象台にある観測機器

町の新たな取り組みを紹介します

（株）ゼンリンとの災害時における協定書を締結

7月19日、嵐山町と（株）ゼンリンは、「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を締結しました。この協定により、事前に最新の住宅地図や広

域図が無償貸与されるほか、複製利用の許可等を受けることができます。

災害対策本部の設置が必要となる大規模な災害時において、被災状況の整理等の様々な業務で住宅地図を使用することが可能になり、より迅速な災害対応を図ることが期待できます。



災害時における地図製品等の供給等に関する協定調印式

ご存知ですか

小型気象計システム「POTEKA(ポテカ)」

「リアルタイム観測で気象変化をキャッチ」



雨量計



日射

感雨

風向

風速

気圧

気温・相対湿度

【気象計本体】

昨年8月より、役場庁舎屋上に小型気象計システムPOTEKAを設置しています。この気象計で得た嵐山町の気象情報はリアルタイムでインターネットを通じて閲覧可能です。

POTEKAの気象計は、気温

・気圧・相対湿度・風向・風速・日射・感雨・雨量の8項目の気象データを観測することができます。

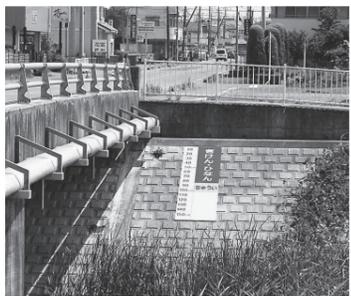
気象計から収集した気象データは「POTEKA NET(ポテカ ネット)」のホームページから閲覧することができ

ます。ホームページの画面では、地図上に嵐山町のみならず全国のPOTEKAの観測地点の気象情報をリアルタイムで表示することができます。

雨や気温の分布図や、雨雲レーダーを表示することもでき、観測地点の状況と照らし合わせることも可能です。

水位表示板を設置

水害による避難の基準とするため、7月より、市野川の精進橋及び都幾川の二瀬橋の2箇所に水位表示板を設置しました。この水位表示板は、国や県などが管理する水位観測所に設置しているものではなく、河川の水位を自視で観測するために町が独自に設置したものです。



精進橋

水位表示板には、10cmごとの目盛りを付けています。また、避難情報の発令の目安として「きけん・ひなん」「ちゅうい」の表示をしています。河川の増水時には、この水位表示板を監視しながら、今後の気象予測等を総合的に判断して、避難情報の発令を行うっていくこととなります。詳細は、8月号をご覧ください。

「大量な雨を降らす雨雲はどのように発生するのでしょうか」石川 地上付近の暖かく湿った空気が日中の日射や山地の斜面など地形等の要因により、上空へ持ち上がった時に発達した積乱雲が発生し、短時間強雨をもたらします。

「埼玉県でも長時間にわたる豪雨が頻発する傾向がありますか」石川 あります。昨年の台風21号では県内で200ミリ〜300ミリの大雨となりましたし、平成27年の関東・東北豪雨では南東部を中心に300ミリ以上の雨が降っており、線状降水帯がもう少し停滞した場合は「大雨特別警報」発表の可能性がありました。

「中小河川で注意することはありますか」石川 中小河川は短時間で急に増水が発生します。仮に今、自分がいる所で降っていないことも上流で狭い範囲でも大雨となった場合などは急な増水が発生する可能性があります。

市町村が発する避難に関する情報や河川の水位、気象庁の危険度分布などの情報を利用して早めの避難を心がけてください。

「ごじもありがひんぎんました」

災害復旧事業を実施

平成29年10月の台風21号により公共施設(町道法面)の災害が発生し、災害復旧事業により復旧工事を実施しました。

道路や河川などの公共施設の災害を発見した場合は、速やかに、まちづくり整備課(☎62-0721)へご連絡ください。なお、民有地での災害は、当災害復旧事業の対象となりません。あらかじめご了承ください。



災害発生時



復旧工事実施後

問合せ 地域支援課 人権・安全安心担当 ☎62-21152